

平成 29 年 3 月 29 日
のと海洋ふれあいセンター
担当者：坂井 恵一
直通：0768-74-1919

のと海洋ふれあいセンター研究報告，第 22 号の発行について

1 趣旨

のと海洋ふれあいセンターでは、石川県の海岸と浅海域における自然環境の保護・管理を推進するため、その環境と生息生育する動植物に関する基礎的な調査研究を行っています。その研究成果は「のと海洋ふれあいセンター研究報告」として取りまとめ、年 1 回発行しています。

2 執筆・編集

調査研究で得られた資料の取りまとめ、原稿執筆は同センター職員をはじめ、同センターの調査研究に協力して下さる研究者が行い、編集は同センターが行っています。

3 規格

A 4 判，44 ページ（白黒）

4 印刷部数

400 部

5 主な送付先

国・各都道府県の関係機関と図書館、自然史系博物館と水族館、関連大学の図書館・研究施設などへ送付します。また、同センターのホームページでも PDF ファイルを公開します。

6 内容（要旨は別紙に記載）

- (1) 新たに見つかった石川県におけるシラウオ *Salangichthys microdon* の生息地
坂井恵一・山本邦彦（いしかわ動物園）
- (2) 能登半島の砂浜海岸におけるスナガニ *Ocyroide stimpsoni* の生息状況（予報）
坂井恵一・又多政博（金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設）
- (3) のと海洋ふれあいセンター年次報告
 - I - 石川県の砂浜海岸における底生動物モニタリング調査
 - II - 石川県の岩礁海岸におけるモニタリング調査
 - III - 九十九湾周辺における気象と水質目次、投稿規定等

のと海洋ふれあいセンター研究報告，第 22 号の要旨

(1) 新たに見つかった石川県におけるシラウオ *Salangichthys microdon* の生息地

坂井恵一・山本邦彦（いしかわ動物園）

河北潟水系の大野川と能瀬川、邑知潟水系の羽咋川でシラウオの生息を新たに確認した。これまでに木場潟、柴山潟、北潟湖で生息を確認していたので、県内の生息域は 5 水系に拡大した。

石川県（1927）によると、大野川のシラウオは江戸から移植されたものとされているが、実態は「江戸から干白魚を持参し、これを宮腰（大野）の海中に放した」との記載が見つかり、その根拠は疑わしいと判断された。また江戸時代の記録（1670 年代）によると、大野川と羽咋川のシラウオは「名産品」として珍重されていたことが明らかで、従来から両水系には、本種が豊富に生息分布していたことが伺い知れた。これまでに確認できたシラウオの生息地（5 水系）は、昭和初期の本種の記録と一致する。河口域や潟湖という人為的影響を最も受けやすい水域で、現在も生息することは、水域環境の改善の努力が生物多様性の復元に貢献した成果の現われではないかと考えられる。シラウオは年魚なので、特に繁殖期や幼魚期において様々な攪乱の影響を受け、年によりその生息個体数が顕著に変動することが推察できる。当地における生活史を明らかにし、保全対策を再検討する必要があると考えられる。

(2) 能登半島の砂浜海岸におけるスナガニ *Ocyroide stimpsoni* の生息状況（予報）

坂井恵一・又多政博（金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設）

宝達志水町以北の 33 ヶ所の砂浜海岸において、スナガニの生息状況と海岸の概況を調査した。

スナガニの生息状況は、汀線にほぼ平行した本種の巣穴密度が最も高い幅 3 m × 長さ 100 m (300 m²) に含まれる巣穴数を数えることを基本に行い、巣穴密度 (1/m²) から生息密度を推察した。スナガニの巣穴密度が高かった志賀町の増穂ヶ浦と千鳥ヶ浜、大島、輪島市の琴ヶ浜、珠洲市の鵜飼と粟津の各海岸は、後浜に良好な植生域を備えることが共通していた。植生域は越冬場所としても重要であると考えられている。逆に、後浜に植生域が見られず、護岸付近まで波が打ち寄せる頻度が高いと思われた珠洲市の川浦や折戸、馬縹、そして羽咋市の西釜屋町や柴垣などは

巣穴密度が低かった。海岸への人と車の出入りが特に激しく、植生域が見られない千里浜や今浜では、巣穴は全く見つからなかった。スナガニの生息密度と海浜植物の生育状況が関係していることが示唆されたので、今後はその関連を調べる必要があると考えている。

(3) のと海洋ふれあいセンター年次報告

I - 石川県の砂浜海岸における底生動物モニタリング調査

2016年の4月と9月、高松、甘田、今浜、千里浜の砂浜海岸において、シギ・チドリ類の重要なエサとなっているナミノリソコエビ等の生息状況を調査した。

ナミノリソコエビの現存量は特に気温の影響を受けるようで、極端な暖冬だった春は越冬（大型）群が少なく、また夏も猛暑だったためか秋の未越冬（小型）群も少なかったが、順調に生息・繁殖を継続していることが確認できた。

II - 石川県の岩礁海岸におけるモニタリング調査

2016年6月と7月、能登半島の輪島市小鶴入、珠洲市長橋、能登町赤崎、七尾市の黒崎、勝尾崎、唐島、そして穴水町新崎の合計7地点の岩礁海岸において、人為的な改変と代表的な動植物の生息・生育状況を調べた。

各海岸とも目立った人為的な改変は行われていなかった。また前回（2009-2011年）の調査と比べても、出現種とその生息・生育量に顕著な変化は認められなかった。ただし、海藻のマクサ（てんぐさ）の生育状況は長橋と勝尾崎、黒崎で良く目についていたが、他の場所では生育量は少なかった。今後も注意して観察する必要があると考えている。また今回の調査でも、カサガイ類の殻長組成が調査海岸の特徴を示す一つの指標となることがうかがい知れた。今後も改良を加えながら、定期的に調査したいと考えている。

III - 九十九湾周辺における気象と水質

2015年1月から12月に観測した天候、気温、最高・最低気温、降水量、磯の海水温と塩分量、pH、そして赤潮が観察された日数を報告した。また、九十九湾周辺に設定した13定点で毎月1回、水温、塩分量、pH、および透明度の観測を行ったのでその結果を報告した。また、2011年2月からの毎月の日射量（kWh/m²）と発電できた交流発電電力量（kWh）を報告した。

以上